

# とらべつ

## 歴史余話

当別町の文化事業を調べるなかで、1983年創業の菓子メーカー「ロイズコンフェクト」(以下、ロイズ)が、一人の画家の画業を紹介し続けていることを知りました。画家の名は、伊藤正(1915-89)。札幌の女学校や高校などで美術教師をしながら創作活動を続けた、北海道の美術界ではよく知られる画家です。

ロイズ創業者の山崎泰博社長は、太美出身。1999年、地元「ふと美工場」を建設しています。昨年3月にはJR札沼線(学園都市線)にロイズタウン駅が誕生しました。また2022年11月、工場内に見学・体験施設「ロイズカカオ&チョコレートタウン」をプレオープンしました。

ロイズと伊藤正——両者を結びつけたのは、「太美の風景」でした。

終戦間近の1945年、札幌市立高等女学校の教師だった伊藤は、援農作業に従事する学徒動員の生徒たちを引率し、太美にやってきます。数カ月にはわたる滞在中、伊藤は学生たちの作業風景、太美の自然などを水彩画として描き残しました。

しかし、伊藤の作品は油彩中心だったこともあり、それらの作品が人目に触れる機会はありませんでした。1989年に伊藤が亡くなると、遺族らは作品の散逸を避けるため、札幌の「白樺画廊」に管理を委ねます。

それから時を経た2001年、この画廊を山崎氏が訪れます。偶然、段ボール箱に入った水彩画に目を留めた山崎氏は、そこに幼い頃の記憶を呼び覚ます懐かしい農村風景を見出しました。それが、伊藤が太美で描いた作品だったのです。

かつての故郷の風景が、絵で残されたことに感銘を受けた山崎氏は、水彩や油彩など1000点以上の作品を額装。2003年9月当別町教育委員会の後援を得て、ふと美工場の一室を利用し「伊藤正太美を描く展」を開催。2004年に伊藤の水彩画を紹介する冊子『ロイズと当別』を出版し、2006年7月にはふと美工場直売店内で伊藤正展も開催しています。

さらに2013年、伊藤の人生と画業を詳しく紹介した冊子『画家伊藤正と太美』を出版するなど、伊藤が描いた太美の風景を次々と紹介してきました。その理由を山崎氏は、「太美の歴史を知ってほしいという思いからだ」(前掲誌)と綴っています。

半世紀もの時を経て“再発見”された伊藤の水彩画。文化遺産は「価値の発見」であるならば、太美の原風景を留めた伊藤正の一連の作品群も、わがまちの貴重なアート(財産)といえるでしょう。

## 第28回 ロイズと伊藤正

ライター 井上 美香



太美にて 太美地区 清水氏、小村氏(昭和20年8月4日)  
水彩

# 詩吟で人生にうるおいを 大畑 富雄 さん



全国吟道大会に出場した時の様子

ここに書ききれないエピソードや写真は  
当別町ホームページ「現在をプラス生きる+」  
でご覧ください。



詩吟を始めて50年。太美道場でも25年指導を続け、詩吟を後世に伝えるため模索する大畑富雄さんにお話しをお聞きしました。

## 村祭りで出会った詩吟

詩吟は、青山に住んでいた30代の頃に地域の方に誘われて始めました。誘われた当初は詩吟に対してあまり関心を持っていませんでした。なぜ始めたのかを思い返してみると、小学5～6年生の頃に青山での村祭りの舞台上で詩吟と剣舞が披露されていたので、その時の良い印象があり、抵抗なくすんなりと取り掛かることができたのかもしれません。

その後、浜益や平取町への転勤を経て、平成9年に太美に越してきました。平成11年2月には町議会議員の方と日本詩吟学院岳風会太美道場を立ち上げ、私が先生となって指導したのを皮切りに、太美での活動は今年で25年になります。

## 魅力とは

詩吟を長く続けてきた大きな理由の一つは、多種多様な方とのお

付き合いの幅が広がることです。私が詩吟を始めた当初、学校の先生や床屋の方、議員の方など様々な職種の方がいたので、詩吟を通して多くの方と関わりを持つことができました。

また、半年ごとに昇段するための審査会があったので、試験に向けて毎日が忙しく充実していました。学校を卒業してから試験を受ける機会はあまりないので、試験に受かったときの喜びを味わうことができるのは、とても魅力的でした。次の段を狙って努力していくことが励みにもつながっていました。

詩吟は、5言絶句（五字×四句＝20文字）と7言絶句（七字×四句＝28文字）の短い漢詩を主に吟じるのですが、2句3息にして一区切りごとに呼吸するほか、間延びをしない、止めるところでしっかり止めるなどがポイントとなります。また、暗記をする必要もあります。ただ、75歳以上は見ても良いことになっています。声の出し方としては、叫んだり怒鳴るのではなく、腹の底から力強い声を出すということが必要で

す。なかなか悠々といかないので、取り組みがいがあります。

## 今後の目標

現在、新型コロナウイルスの影響による行動制限を受けたため、詩吟全体の活動が低迷しています。若い人たちが詩吟を始めていただくためにも、学校の授業の中に詩吟を取り入れるなどをして、子どもたちが詩吟への興味・関心を持つきっかけを作れば、裾野が広がると思います。

また、日本詩吟学院岳風会では精神修養として、人格を高めるという大きな目標を掲げており、詩吟を通して同じ目標を掲げる仲間を増やし、世の中を良くできたらと願っています。

**気力・活力・生命力を養い  
人生を豊かにする詩吟  
あなたの楽しみの一つに  
加えてみませんか！**

教 場：西当別コミュニティセンター（小会議室）

日 時：毎週木曜日  
10時～12時

問合せ：☎26-2175（大畑）